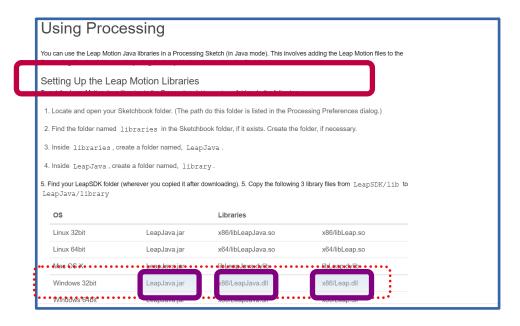
■Leap Motionの動作に必要なライブラリの格納

LeapMotionを利用するにあたって、必要なライブラリをProcessingの開発環境に格納します。

LeapMotionの開発情報サイトを確認ください。

https://developer-archive.leapmotion.com/documentation/java/devguide/Leap_Processing.html



Windows環境では、次の3つのライブラリが必要と説明書きがあります。

3つのライブラリは、インストールしたSDKにあります。これから、Processingの環境フォルダにそれぞれ格納します。

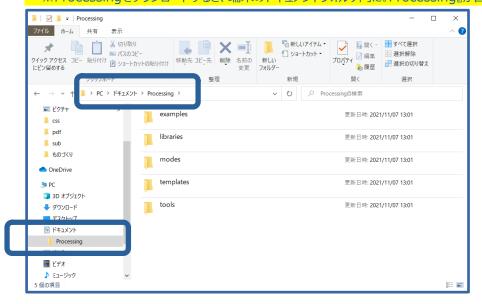


https://www.java.com/ja/download/manual.jsp

①格納先のフォルダに移動します。

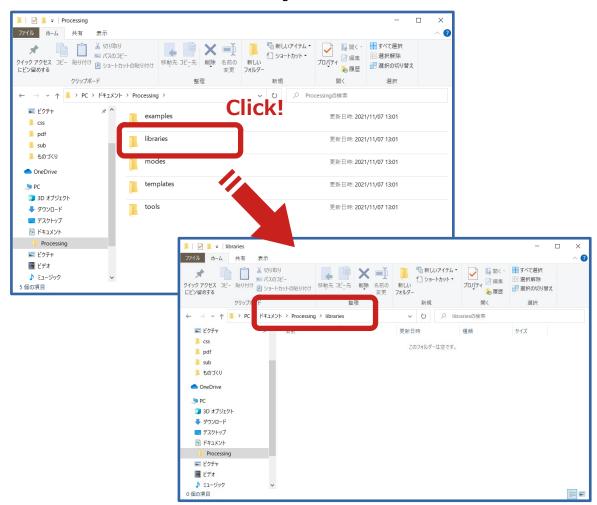
C:¥Users¥【ユーザ名】¥Documents¥Processing

※Processingをダウンロードすると、端末のドキュメントフォルダ内に『Processing』が自動生成される。

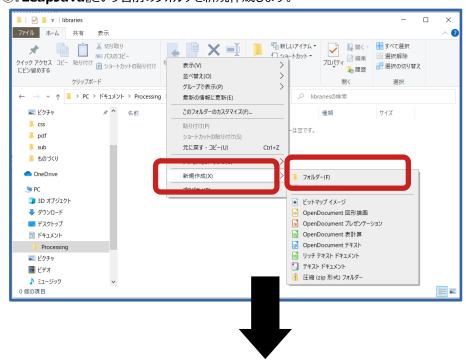


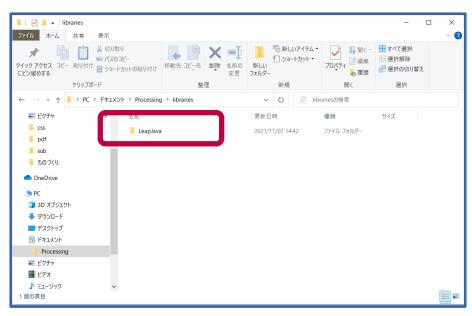
②フォルダ『Libraries』に移動します。

C:¥Users¥【ユーザ名】¥Documents¥Processing¥libraries

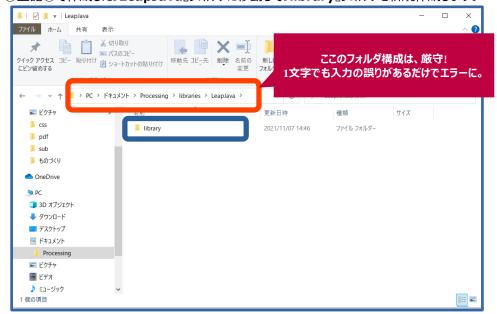


③『LeapJava』という名前のフォルダを新規作成します。



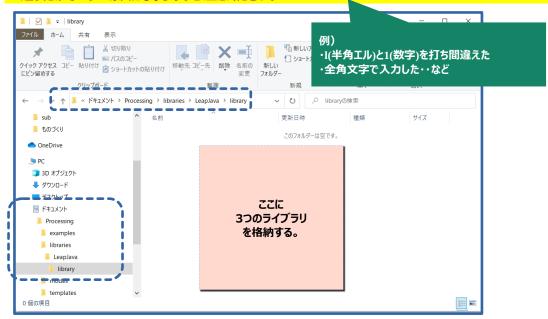


④上記③で作成した『LeapJava』フォルダに移動して『library』フォルダを新規作成します。



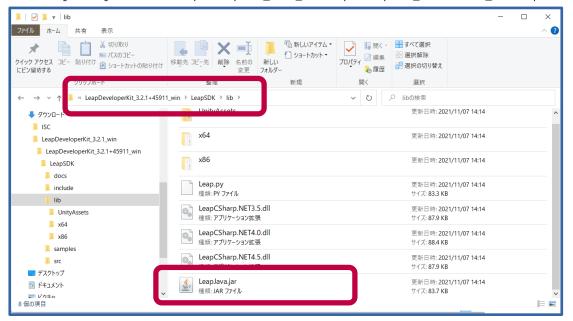
⑤これから、この『library』フォルダ内に、SDKの必要なライブラリ3つを格納します。

※このパスはProcessingが動作する上で、読み込んだり書き込みを行う環境です。フォルダの名称が1文字違うだけでエラー原因になります。ご注意ください。

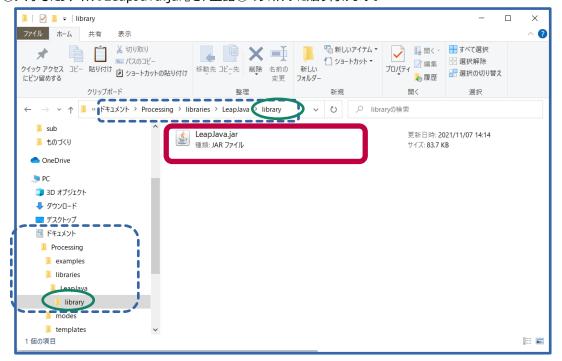


⑥ダウンロードしたSDKの次のパスから『LeapJava.jar』ファイルをコピーします。

C:\Users\[ユーザ名]\EapDownloads\LeapDeveloperKit_3.2.1_win\LeapDeveloperKit_3.2.1+45911_win\LeapSDK\Ib

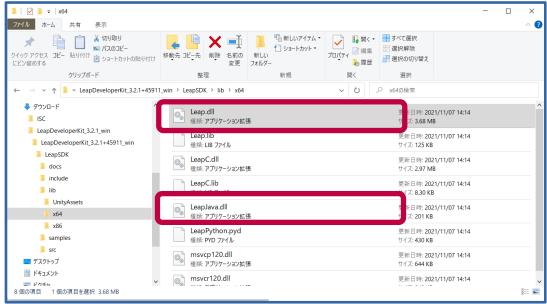


⑦入手したファイル『LeapJava.jar』を、上記⑤のフォルダに貼り付けます。



⑧続いて、ダウンロードしたSDKの次のパスから『Leap.dll』と、『LeapJava.dll』ファイルをコピーします。

 $C: \forall Users \\ \textbf{$1-$\mathsf{T}$}] \\ \textbf{$2.1-T}] \\ \textbf{$2.1-$\mathsf{T}$} \\ \textbf{$1-T} \\ \textbf{$1-$\mathsf{T}$}$



⑨入手した『Leap.dll』と、『LeapJava.dll』ファイルを、上記⑤のフォルダに貼り付けたら、準備は完了です。

